

## 【 学 部 編 】

<b>I</b>	<b>ポリシー</b>	
1	ディプロマ・ポリシー	学部 1
2	カリキュラム・ポリシー	学部 2
<b>II</b>	<b>卒業要件単位数（詳細）</b>	
1	卒業要件単位数（詳細）	学部 4
<b>III</b>	<b>学科独自の制度</b>	
1	試験制度について	学部 5
2	進級制限制度について	学部 8
3	薬学共用試験について	学部 9
4	実務実習について	学部 9
5	ホワイトコートセレモニーについて	学部 10
6	薬学総合演習について	学部 10
<b>IV</b>	<b>科目分類番号</b>	
1	科目分類番号について	学部 11
<b>V</b>	<b>共通教育科目等の課程表</b>	
1	共通教育科目等 課程表	学部 12
<b>VI</b>	<b>専門教育科目のカリキュラム・ツリーおよび課程表</b>	
1	カリキュラム・ツリー	学部 22
2	薬学科 課程表	学部 23
<b>VII</b>	<b>教免取得に関する教育課程表</b>	
1	中高免教職課程について	学部 26
<b>VIII</b>	<b>各種資格</b>	
1	薬剤師資格について	学部 35



# 1 ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーとは金城学院大学の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学修成果の目標となるものです。

## 〔1〕金城学院大学

金城学院大学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としています。教育スローガン「強く、優しく。」は、主体性を持ってものごとを成し遂げ、学んだ広い知識を人生の場で生かせる「強さ」、まわりの人々の気持ちを理解し、協働していく「優しさ」を兼ね備えることを意味します。

本学では、上記の建学の精神を踏まえた教育目標の実現を目指し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

### 1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。

### 2. 汎用的技能

(2) 情報を適正に収集・分析し、色々な角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。

(3) 日本語をはじめ外国語や種々の表現方法を修得し、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

### 3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献することができる。

### 4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

## 〔2〕薬学部薬学科

薬学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、薬学領域における専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

### 1. 知識・理解

(1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と薬学に関する深い専門的知識を身につけている。

### 2. 汎用的技能

(2) 薬学的問題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、色々な角度から問題点を論理的に考えて解決を図ることができる。

(3) 他者の立場や見解を理解・尊重し、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。

### 3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。

(5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、薬事衛生に携わることによって社会に貢献することができる。

### 4. 統合的な学修経験と創造的思考力

(6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

## 2 カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーとはディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針です。

### 〔1〕金城学院大学

金城学院大学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としています。教育スローガン「強く、優しく。」は、主体性を持ってものごとを成し遂げ、学んだ広い知識を人生の場で生かせる「強さ」、まわりの人々の気持ちを理解し、協働していく「優しさ」を兼ね備えることを意味します。

本学では、上記の建学の精神を踏まえた教育目標の実現を目指し、学生が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験、実習および実技を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

#### 1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。

共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。

専門教育科目における初年次教育では、学科の専門性を踏まえた種々の表現方法のスキル向上、多角的に考える力の向上を図ります。

- (3) 専門教育科目では、学生が専門分野の知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。専門分野の体系性に基づき、適切な内容の授業を編成します。
- (4) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究等を実施します。

#### 2. 教育方法

- (5) 講義科目においては履修者上限人数を原則120名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (6) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (7) 実験・実習および実技科目においては、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (8) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (9) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

#### 3. 評価

- (10) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を

確実に身につけられるように、大学レベル、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。

- (11) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定めます。

## 〔2〕薬学部薬学科

薬学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

### 1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。

- (2) 初年次教育では、学生が大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。

共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図り、情報教育を実施します。

専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる「基礎科目」「演習科目」を編成し、基本的知識の修得および協調性・プレゼン能力・論理的思考力の向上を図ります。また早期体験学修を通じて薬学生としての自覚を促します。

- (3) 専門教育科目では、学生が薬学の知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 薬学の体系性に基づき、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」を設置して、薬剤師、薬学士として社会で幅広く活用できる応用的な知識を修得できるよう授業を編成します。
- (5) 学生が身につけた専門知識を活用して実践する「実習科目」を設置し、物質・生物の取り扱い、試験法、検査法、薬剤師業務の基本を修得できるような実習を編成します。
- (6) 学生が身につけた知識・技能・態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように「卒業研究」を設置し、実験研究や文献調査研究とそれらの成果発表を通じて、薬学ジェネラリスト・薬剤師としての研究マインドを醸成します。

### 2. 教育方法

- (8) 講義科目、特に基礎科目および基幹科目においての履修者上限人数は各学年在籍者数の半数（約75名）を原則とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実習、演習科目においては知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

### 3. 評価

- (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）を別に定め、多面的な評価を行います。

# 1 卒業要件単位数（詳細）

科目名の★は必修

葉学科				卒業要件		187 (単位)		
共通教育科目				36				
必修	①キリスト教	キリスト教学(1)	★	2	24			
		キリスト教学(2)	★	2				
	④英語教育科目	英語コミュニケーションA(1)	★	1				
		英語コミュニケーションA(2)	★	1				
		英語コミュニケーションB(1)	★	1				
		英語コミュニケーションB(2)	★	1				
		英語コミュニケーションC(1)	★	1				
		英語コミュニケーションC(2)	★	1				
		英語コミュニケーションD(1)	★	1				
		英語コミュニケーションD(2)	★	1				
	⑥キャリア開発教育科目	女性みらい	★	1				
	⑦教養科目	倫理学A	★	2				
		心理学A	★	2				
		法学	★	2				
⑧情報教育科目	情報リテラシー	★	2					
	IT活用H	★	2					
⑨S&E教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズ講義	★	1					
選択必修A	①キリスト教	(キリスト教学(1)、(2)を除く)		2	7			
	②女性							
	③国際理解							
	⑦教養科目 (倫理学A、心理学A、法学を除く)							
	⑨S&E教育科目 (スポーツ・アンド・エクササイズ講義、スポーツ・アンド・エクササイズHを除く)							
選択必修B	①キリスト教	(キリスト教学(1)、(2)、選択必修Aでの履修科目を除く)		5	5			
	②女性							
	③国際理解							
	④英語教育科目 (英語コミュニケーションA～Dを除く)							
	⑤外国語教育科目							
	⑥キャリア開発教育科目 (キャリア開発A、B、女性みらいを除く)							
	⑦教養科目 (選択必修Aでの履修科目、倫理学A、心理学A、法学を除く)							
	⑧情報教育科目 (情報リテラシー、IT活用Hを除く)							
	⑨S&E教育科目							スポーツ・アンド・エクササイズH
	⑩学生プロジェクト科目							
	⑪海外研修科目							
専門教育科目				151				
基礎科目	必修			16				
基幹科目	必修			32				
展開科目	必修			22		24		
	選択必修A			1				
	選択必修B			1				
実習科目	必修			28				
演習科目	必修			41				
卒業研究	必修			10				
資格関連科目				-				
自由履修				-				



# 1 試験制度について

薬学科では、以下の試験を実施します。各試験の日程の詳細については、履修要覧別冊の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

## 〔1〕 中間試験

- (1) 専門教育科目において、主に各期授業開始後6～8回（週）目を実施される試験です。
- (2) 試験の詳細は、事前にK-PORTで発表します。
- (3) 受験できなかった場合、追試験（**大学編 ① 8 試験について** を参照）の対象にはなりませんので、授業担当者の指示に従ってください。
- (4) 科目によって、実施されない場合があります。

## 〔2〕 期末試験

- (1) 専門教育科目において、15回（週）目を実施される試験です。試験の実施にあたっては、試験期間内試験に準じます。
- (2) 試験の詳細は、事前にK-PORTで発表します。
- (3) 正当な理由により受験できなかった場合、追試験の対象になります（**大学編 ① 8 試験について** を参照。ただし、薬学総合演習を除く）。専門教育科目の追試験を欠席した場合は、追試験の再試験対象者となります。

## 〔3〕 再試験

- (1) 専門教育科目（薬学PBL、薬学TBL、薬学セミナー、薬学CBL、薬学演習、事前学習、卒業研究、薬学総合演習、実験・実習および実技を除く）の評価が「F」であった場合、各期再試験を実施します。また、追試験においても同様に再試験を実施します。
- (2) 評価が「F」の学生は、全員再試験受験対象者となり、再試験を受験しなければなりません。ただし、期日までに再試験辞退願を履修支援センターへ提出することにより、受験を辞退することができ、再試験料の支払いが免除されます。
- (3) 再試験受験を辞退した者が後に当該科目の単位を修得しようとする場合は、同科目を再履修しなければなりません。
- (4) 再試験対象者および再試験時間割は、K-PORTで発表します。
- (5) 再試験料は1科目につき3,000円です。原則学納金口座から引き落としとなります（前期は9月、後期は3月）。ただし、追試験の再試験を受験する場合は、証明書自動発行機で受験料を納付し、再試験実施日から3日以内（最終日が休日の場合、その翌日）に履修支援センターへ提出してください。
- (6) 再試験を次の理由により受験できなかった場合、再試験実施日から3日以内（最終日が休日の場合、その翌日）に履修支援センターに必要な証明書を提出し手続きをすることにより、対象科目の再試験料の支払いが免除され、再々試験を受験することができます。
  - ア) **大学編 ① 8 試験について**〔1〕③追試験②～③の理由で欠席した場合
  - イ) その他、薬学部長が認めた場合
- (7) 再試験料は受験しなかった場合も引き落としします。原則、いったん納付した受験料は返還することができません。

#### 〔4〕再々試験・期間外再々試験

- (1) 再試験の評価が「F」の場合は、原則としてその科目は次年度再履修となります。ただし、次年度の再履修が不可能な場合、必修科目に限り、次年度に再試験に対する再試験（以下、再々試験）の受験が認められます。再々試験の受験が認められた場合、履修登録は履修支援センターで行います。再試験の詳細はK-PORTで発表します。
- (2) 再々試験料は1科目につき3,000円です。原則学納金口座から引き落としとなります（前期は9月、後期は3月）。ただし、期日までに再々試験辞退願を履修支援センターへ提出することにより、受験を辞退することができ、再試験料の支払いが免除されます。
- (3) 再々試験を次の理由により欠席した場合、履修支援センターに必要な証明書を提出し手続きをすることにより、追試験の受験が認められます。この場合、欠席事由解消後3日以内（最終日が休日の場合、その翌日）に履修支援センターで手続きをしてください。
  - ア) 学校保健法施行規則第19条に規定されている伝染病に感染または感染の疑いがある場合
  - イ) 忌引きの場合－忌引きは二親等までとし、履修要覧に示された日数が限度です。
- (4) 期間外再々試験とは、再試験期間より前に実施する試験です。前期科目は、9月～12月、後期科目は、次年度4月～6月に行われます。期間外再々試験の実施科目はK-PORTで発表します。試験日時等、詳細については授業担当者から指示があります。期間外再々試験料は1科目につき3,000円です。原則学納金口座から引き落としとなります（前期は9月、後期は3月）。ただし、期日までに期間外再々試験辞退願を履修支援センターへ提出することにより、受験を辞退することができ、再試験料の支払いが免除されます。
- (5) 再々試験および期間外再々試験の受験を辞退した者が後に当該科目の単位を修得しようとする場合は、同科目を再履修しなければなりません。
- (6) 再々試験料は受験しなかった場合も引き落としします。原則、いったん納付した受験料は返還することができません。

#### 〔5〕卒業再試験

- (1) 卒業年度に限り、各期再試験（前期科目の場合は期間外再々試験を含む）の評価が「F」であった科目（薬学総合演習を除く）は、卒業再試験の対象となります。受験のための手続きがありますので注意してください。卒業再試験については、**大学編 ① 8 試験について** を参照してください。





## 2 進級制限制度について

(1) 各学年において、以下に定めた要件に満たない場合は進級できません。

① **1年次から2年次への進級時：**

1年次終了までに修得すべき必修科目のうち、6科目以上未修得のとき。

※共通教育科目：学部編「卒業要件単位数（詳細）」表の必修科目欄において太字で★が記載されている  
1年次開講科目

※専門教育科目：学部編「薬学科課程表」において太字で★が記載されている1年次開講科目

② **2年次から3年次への進級時：**

2年次終了までに修得すべき必修科目のうち、6科目以上未修得のとき。

※共通教育科目：学部編「卒業要件単位数（詳細）」表の必修科目欄において太字で★が記載されている  
1～2年次開講科目

※専門教育科目：学部編「薬学科課程表」において太字で★が記載されている1～2年次開講科目

③ **3年次から4年次への進級時：**

3年次終了までに修得すべき必修科目のうち、6科目以上未修得のとき。

※共通教育科目：学部編「卒業要件単位数（詳細）」表の必修科目欄において太字で★が記載されている  
科目

※専門教育科目：学部編「薬学科課程表」において太字で★が記載されている1～3年次開講科目

④ **4年次から5年次への進級時：**

「事前学習(1)」および「事前学習(2)」の単位が未修得の者、または薬学共用試験に合格とならなかった者

⑤ **5年次から6年次への進級時：**

「実務実習」を除く5年次終了までに修得すべき卒業要件上の科目および単位のうち、6科目以上未修得のとき。

※5年次までに修得すべき卒業要件上必要な共通教育科目および専門教育科目と単位（選択必修を含む）のすべてを指します。

(2) 進級制限を受けた場合、同一学年における在学年数は、通算して3年を超えることができません。ただし、休学期間はこの年数に含まれません。

(3) 進級制限を受け同じ学年に留まる者の在学料は、1年次から各学年次終了までに修得すべき必修科目の不足単位数（5年次から6年次への進級留年時は、5年次終了までに修得すべき卒業要件上の科目および単位数）が9単位以内の場合、授業料の半額相当額とし、10単位以上の場合、授業料及びその他の所定の学納金と同額となります。

## 3 薬学共用試験について

薬学共用試験とは、**CBT**（Computer-Based Testing）と**OSCE**（Objective Structured Clinical Examination）から構成される試験です。実務実習を行う前に、この両試験に合格しなければなりません。試験日程は履修要覧別冊の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

**CBT**：実務実習に必要な知識を持ち合わせていることを確認する、コンピュータを用いた試験です。共用試験センターサーバに保存されている問題が無作為に選ばれ、インターネットを介して各受験生に送付され、それを受験生が解いていく方式で行われます。問題は310問で、10分野（物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、医療薬学「薬理・薬物治療系」、医療薬学「情報系」、医療薬学「薬剤系」、基本事項、薬学と社会、衛生薬学、薬学臨床）から出題されます。

**OSCE**：実務実習に必要な技能・態度を持ち合わせていることを確認する実技試験です。試験は、「患者・来局者対応」、「薬剤の調製」、「調剤監査」、「無菌操作の実践」、「情報の提供」の5領域から出題されます。

薬学共用試験の受験料は以下のとおりです。

受験する試験の種類	CBT	OSCE
本試験とCBT体験受験	26,000円	
本試験のみ	24,000円	
再試験	24,000円	
	12,000円	12,000円

※受験料は2020年度の実績です。金額は変更になることがあります。

※追試験については、受験料は徴収されません。

※本試験とCBT体験試験の受験料は12月に学納金口座から引き落としとなります。

※再試験の受験料は3月に学納金口座から引き落としとなります。

※未受験の場合でも受験料は返還されません。

## 4 実務実習について

- 実務実習は学外の医療施設で行う実習です。病院における実習と薬局における実習を各11週間ずつ、合計22週間行います。実務実習では、主に薬剤師として必要な知識、技能、態度を医療現場で学びます。
- 実務実習を履修するためには以下の要件を満たす必要があります。

- ①薬学共用試験合格
- ②「事前学習(1)」および「事前学習(2)」の単位修得

## 5 ホワイトコートセレモニーについて

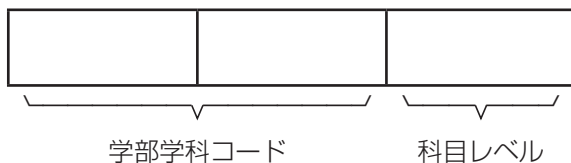
薬学共用試験（CBTとOSCE）本試験に合格し実務実習事前学習の科目を修得した学生は、ホワイトコートセレモニーへの出席を許可され、実務実習参加の認証を受けることができます。セレモニーは、学部長から真新しい白衣を授与された実務実習参加学生に認証授与が認められ、宗教主事が聖書を読み、祈りを捧げることで厳粛かつ整然と行われます。セレモニーの目的は、医療現場にでるためのモチベーションの高揚と倫理・道徳意識の向上、そして医療チームの一員として白衣を着用することの重みと意義について認識することにあります。

## 6 薬学総合演習について

薬学総合演習とは、薬学科のディプロマポリシーのもとに、薬学における知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学修経験と創造的思考力について、それぞれの専門科目を総合して6年間の総復習を行う授業です。薬学総合演習の試験は原則として追試験および卒業再試験の対象となりません。試験日程の詳細や成績評価基準については、別途お知らせします。

# 1 科目分類番号について

科目分類番号は数字3桁でカリキュラムにおける当該科目の位置づけを示したものです。履修の際の参考にしてください。



## 学部学科コード

共通教育：10

薬学部薬学科：71

## 科目レベル

入門：1 科目内容レベルが導入もしくは入門に位置づけられる科目

基礎：2 主に基礎として学ぶべき科目等

発展：3 応用や発展の内容を含む科目等

※科目分類番号と開講基準年次は違います。例えば3桁目のレベルが3に設定されていても、開講基準年次が1年次に設定されていれば1年生でも履修できます。反対にレベルが1や2に設定されていても開講基準年次が3年次になっていれば1・2年生は履修することができません。

# 1 共通教育科目等 課程表

科目名の★は必修、■は選択必修

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
I 金城アイデンティティ科目	①キリスト教	キリスト教 学 (1) ★	建学の精神であるキリスト教と聖書の世界について学ぶ	101	2					
		キリスト教 学 (2) ★		101	2					
		キリスト教 学 (3) ■	『聖書』とその領域について学ぶ	102		2				
		キリスト教 学 (4) ■	キリスト教の歴史とその領域について学ぶ	102		2				
		聖書の読み方 ■	『聖書』の執筆者、書かれた目的、内容を学ぶ	101		2				
		現代世界とキリスト教 ■	世界各地域のキリスト教事情を学ぶ	101		2				
		医療とキリスト教精神 ■	医療従事者から医療とキリスト教の精神の関係を学ぶ	101		2				
		福祉とキリスト教 ■	福祉の各分野とキリスト教の関わりについて学ぶ	101		2				
		キリスト教文化学入門 ■	中世のキリスト教が生み出した祝祭日の歴史を学ぶ	101		2				
	いのち・こころ ■	誕生から死まで、困難をバネに積極的に生きることを考える	101		2					
	②女性	聖書の女性観 ■	『聖書』における女性の描き方を通して女性観を学ぶ	101		2				
		歴史の中の女性 ■	19世紀の英国と米国の歴史に登場する女性について学ぶ	101		2				
		世界の女性問題 ■	国際社会における女性の人権について考える	101		2				
		福祉と女性 ■	女性が抱える社会福祉の問題を通して生き方を考える	101		2				
		女性と文学 ■	文学や映画に登場する女性を新たな視点から考察する	101		2				
		男女共同参画社会 ■	従来の男女観、国際比較等から日本女性の状況を考える	101		2				
		性差の科学 ■	ジェンダーと人間行動・偏見・コミュニケーションを学ぶ	101		2				
	③国際理解	世界の多様な文化 ■	異なる地域に住む人々の社会や文化、宗教的背景を学ぶ	101		2				
		世界の社会問題 ■	日本を取り巻く国際情勢とその問題について学ぶ	101		2				
		多文化共生社会 ■	多民族・多文化共生社会の実現について考える	101		2				
		Topics in Comparative Culture ■	外国と比較した日本文化を基本的な英語で学ぶ	101		2				
		Topics in Contemporary Japan ■	英語で学ぶ現代日本の諸問題	101		2				
		異文化コミュニケーション ■	異文化間で起こる様々な問題を解決する能力を培う	101		2				



科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
④ 英語教育科目	英語コミュニケーションA (1) ★	Speaking ・ Writing	101	1						
	英語コミュニケーションA (2) ★	Speaking ・ Writing	101	1						
	英語コミュニケーションB (1) ★	CALL ・ Reading	101	1						
	英語コミュニケーションB (2) ★	CALL ・ Reading	101	1						
	英語コミュニケーションC (1) ★	Speaking ・ Presentation	102	1						
	英語コミュニケーションC (2) ★	Speaking ・ Presentation	102	1						
	英語コミュニケーションD (1) ★	Reading ・ Listening	102	1						
	英語コミュニケーションD (2) ★	Reading ・ Listening	102	1						
	英語コミュニケーションE (1) ■	Integrated English (総合英語)	103		1					
	英語コミュニケーションE (2) ■	Integrated English (総合英語)	103		1					
	英語コミュニケーションF ■	検定試験対策 (TOEIC L&R 対策)	103		1					
	英語コミュニケーションG ■	検定試験対策 (TOEIC L&R 対策)	103		1					
⑤ 外国語教育科目	ドイツ語 (1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	ドイツ語 (2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	ドイツ語 (3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	ドイツ語 (4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	ドイツ語会話 (1) ■	初級1 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	101	1						
	ドイツ語会話 (2) ■	初級2 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	101	1						
	ドイツ語会話 (3) ■	初級3 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	102		1					
	ドイツ語会話 (4) ■	初級4 (主としてドイツ語を用いる会話の授業)	102		1					
	フランス語 (1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	フランス語 (2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	フランス語 (3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	フランス語 (4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					

II 金城コア科目

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
Ⅱ 金城コア科目 ⑤外国語教育科目	フランス語会話(1) ■	初級1 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	101	1						
	フランス語会話(2) ■	初級2 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	101	1						
	フランス語会話(3) ■	初級3 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	102		1					
	フランス語会話(4) ■	初級4 (主としてフランス語を用いる会話の授業)	102		1					
	スペイン語(1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	スペイン語(2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	スペイン語(3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	スペイン語(4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	スペイン語会話(1) ■	初級1 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	101	1						
	スペイン語会話(2) ■	初級2 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	101	1						
	スペイン語会話(3) ■	初級3 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	102		1					
	スペイン語会話(4) ■	初級4 (主としてスペイン語を用いる会話の授業)	102		1					
	中国語(1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	中国語(2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	中国語(3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	中国語(4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	中国語会話(1) ■	初級1 (主として中国語を用いる会話の授業)	101	1						
	中国語会話(2) ■	初級2 (主として中国語を用いる会話の授業)	101	1						
	中国語会話(3) ■	初級3 (主として中国語を用いる会話の授業)	102		1					
	中国語会話(4) ■	初級4 (主として中国語を用いる会話の授業)	102		1					
	韓国・朝鮮語(1) ■	初級1 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	韓国・朝鮮語(2) ■	初級2 (主として日本語による文法・読解の授業)	101	1						
	韓国・朝鮮語(3) ■	初級3 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					
	韓国・朝鮮語(4) ■	初級4 (主として日本語による文法・読解の授業)	102		1					

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数								
				1年	2年	3年	4年	5年	6年			
II 金城コア科目	⑤外国語教育科目	韓国・朝鮮語会話(1) ■	初級1 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	101	1							
		韓国・朝鮮語会話(2) ■	初級2 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	101	1							
		韓国・朝鮮語会話(3) ■	初級3 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	102		1						
		韓国・朝鮮語会話(4) ■	初級4 (主として韓国・朝鮮語を用いる会話の授業)	102		1						
	⑥キャリア開発教育科目	キャリア開発 A	キャリア開発の意義と方法	101	2							
		キャリア開発 B	マナー&コミュニケーション	101	1							
		キャリア開発 C ■	自分らしい生き方を設計する	102		2						
		キャリア開発 D ■	いきいき働く女性たち	102		2						
		キャリア開発 E ■	企業のトップに学ぶキャリアの本当の意味	103			2					
		キャリア開発 F ■	将来の仕事を考える	103			2					
		キャリア開発 G (1) ■	インターンシップ準備	102		2						
		キャリア開発 G (2) ■	インターンシップ	103			2					
		女性みらい ★	女性の心身の健康	101	1							
	III 金城展開科目	⑦教養科目	文学 A ■	日本文学論	101	2						
			文学 B ■	西洋文学論	101	2						
			文学 C ■	文学とキリスト教	101	2						
			史学 A ■	日本史入門	101	2						
			史学 B ■	西洋史入門	101	2						
			史学 C ■	現代世界の形成	101	2						
哲学 A ■			東洋哲学	101	2							
哲学 B ■			西洋哲学	101	2							
倫理学 A ★			倫理学入門	101	2							
倫理学 B ■			いのちの倫理	101	2							

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
Ⅲ 金城展開科目 ⑦教養科目	地 域 研 究 A ■	日本文化論	101	2					
	地 域 研 究 B ■	英語圏の生活と文化	101	2					
	地 域 研 究 C ■	ヨーロッパの生活と文化	101	2					
	地 域 研 究 D ■	アジアの生活と文化	101	2					
	地 理 ■	日本地理	101	2					
	文 化 人 類 学 ■	文化人類学入門	101	2					
	宗 教 学 ■	キリスト教と日本	101	2					
	日 本 語 学 ■	日本語学入門	101	2					
	日 本 語 表 現 ■	実践日本語	101	2					
	ロジカルシンキング ■	ロジカルシンキング入門	101	2					
	芸 術 ・ 音 楽 A ■	西洋音楽史入門	101	2					
	芸 術 ・ 音 楽 B ■	西洋音楽鑑賞入門	101	2					
	芸 術 ・ 音 楽 C ■	音楽とキリスト教	101	2					
	芸 術 ・ 音 楽 D ■	ハンドベル入門	101	1					
	芸 術 ・ 美 術 A ■	日本美術史	101	2					
	芸 術 ・ 美 術 B ■	西洋美術史	101	2					
	芸 術 ・ 美 術 C ■	美術とキリスト教	101	2					
	法 学 ★	法学入門	101	2					
	日 本 国 憲 法 ■	日本国憲法の理解	101	2					
	政 治 学 ■	政治と行政	101	2					
	平 和 学 ■	平和学入門	101	2					
	経 済 学 ■	経済学入門	101	2					
	経 営 学 A ■	経営学入門	101	2					
	経 営 学 B ■	マーケティング入門	101	2					

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
Ⅲ 金城展開科目 ⑦教養科目	社会学 A ■	社会学入門	101	2						
	社会学 B ■	消費社会論	101	2						
	名古屋学 ■	名古屋の魅力	101	2						
	心理学 A ★	社会心理学	101	2						
	心理学 B ■	発達心理学	101	2						
	心理学 C ■	臨床心理学	101	2						
	生活科学 A ■	生活と科学	101	2						
	生活科学 B ■	健康とサプリメント	101	2						
	生活科学 C ■ 薬学科は履修不可	化粧品学入門	101	2						
	衣生活学 A ■	生活と衣服	101	2						
	衣生活学 B ■	ファッションの歴史	101	2						
	食生活学 ■	食品栄養学	101	2						
	住生活学 ■	生活と住まい	101	2						
	健康科学 ■	健康科学入門	101	2						
	生物学 A ■	生物学入門	101	2						
	生物学 B ■	生命科学入門	101	2						
	環境学 ■	環境学入門	101	2						
	数学 ■	数学入門	101	2						
	統計科学 ■	統計学入門	101	2						
	情報学 ■	情報学入門	101	2						
	薬学 ■ 薬学科は履修不可	女性のための薬学入門	101	2						
	教職入門 ■	教職の意義と役割	101	2						
	学校と教育の歴史 ■	教育の歴史と思想	101	2						
発達と学習 ■	子どもの発達と学習過程	101	2							

※「大学での学び」は高大接続連携授業において履修する科目であり、入学後の履修はできません。

※「スポーツ・アンド・エクササイズH」の修得単位は、選択必修Aには含まれません。

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
Ⅲ 金城展開科目	⑦ 教養科目	教 育 相 談 ■	学校における心のケア	101	2					
		大 学 で の 学 び ■ ※履修不可	高大接続連携授業	-	1					
	⑧ 情報教育科目	情 報 リ テ ラ シ ー ★	コンピュータ力を身につける	101	2					
		I T 活 用 A ■	3次元コンピュータ・グラフィックス	102	2					
		I T 活 用 B ■	動画作成編集	102	2					
		I T 活 用 C ■	プログラミング入門	102	2					
		I T 活 用 D ■	Web ページデザイン	102	2					
		I T 活 用 E ■	コンピュータ統計入門	102	2					
		I T 活 用 F ■	デスクトップ・パブリッシング	102	2					
		I T 活 用 G ■	コンピュータ・デザイン	102	2					
		I T 活 用 H ★	コンピュータと薬学	102	2					
	⑨ S&E 教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA ■	テニスとゴルフ	101	1					
		スポーツ・アンド・エクササイズB ■	バドミントンとライトスポーツ	101	1					
		スポーツ・アンド・エクササイズC ■	卓球とフィットネスA（ヨガ・太極拳など）	101	1					
		スポーツ・アンド・エクササイズD ■	フィットネスB（体カトレーニング・ストレッチなど） と卓球	101	1					
		スポーツ・アンド・エクササイズE ■	ゴルフとバドミントン	101	1					
		スポーツ・アンド・エクササイズF ■	ライトスポーツとテニス	101	1					
		スポーツ・アンド・エクササイズG ■	ライトスポーツ	101		1				
		スポーツ・アンド・エクササイズH ■	ヘルシーエクササイズ	102			1			
スポーツ・アンド・エクササイズ講義 ★		スポーツと健康	102		1					



※修得単位について…実践ビジネス英語A～E、海外ビジネス研修の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
⑩学生プロジェクト科目	キャリアプロジェクト ■	社会に参加する	103	2						
	里山プロジェクト ■	里山から見る日本の姿	103	2						
	KIDSセンタープロジェクト ■	KIDSセンター活動に参加する	103	2						
	ボランティアプロジェクト ■	ボランティアを实践する	103	2						
	訪問演奏プロジェクト ■	慰問演奏を行おう	103	2						
⑪海外研修科目	海外研修 A ■	北米	103	2						
	海外研修 B ■	イギリス	103	2						
	海外研修 C ■	オーストラリア	103	2						
	海外研修 D ■	中国	103	2						
	海外研修 E ■	その他の地域	103	2						
	海外留学準備講座 ■	留学への心構えや留学先の文化・社会的背景を学ぶ	101	1						
⑫実践ビジネス英語科目	実践ビジネス英語 A 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 550以上を目指す	103	1						
	実践ビジネス英語 B 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 600以上を目指す	103	1						
	実践ビジネス英語 C 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 650以上を目指す	103		1					
	実践ビジネス英語 D 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 700以上を目指す	103			1				
	実践ビジネス英語 E 選抜者以外は履修不可	英語のレポート作成方法を学ぶ	103				1			
	海外ビジネス研修 選抜者以外は履修不可	カナダでビジネスコミュニケーションを学ぶ	103		1					

## 各教科の指導法・教育の基礎的理解に関する科目等（中・高・栄養免許）

授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
国 語 科 指 導 法 A	102	4					
国 語 科 指 導 法 B	102	2					
国 語 科 指 導 法 C	102	2					
社会科・地理歴史科指導法A	102	2					
社会科・地理歴史科指導法B	102	2					
社会科・公民科指導法A	102	2					
社会科・公民科指導法B	102	2					
理 科 指 導 法 A	102	4					
理 科 指 導 法 B	102	2					
理 科 指 導 法 C	102	2					
音 楽 科 指 導 法 A	102	4					
音 楽 科 指 導 法 B	102	2					
音 楽 科 指 導 法 C	102	2					
家 庭 科 指 導 法 A	102	4					
家 庭 科 指 導 法 B	102	2					
家 庭 科 指 導 法 C	102	2					
英 語 科 指 導 法 A	102	4					
英 語 科 指 導 法 B	102	2					
英 語 科 指 導 法 C	102	2					
書 道 科 指 導 法	102	4					
情 報 科 指 導 法	102	4					
福 祉 科 指 導 法	102	4					

授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
学 校 と 教 育 の 歴 史	101	2					
教 職 入 門	101	2					
教 育 社 会 学	102	2					
発 達 と 学 習	101	2					
特別支援教育の理論と方法	102	2					
教 育 課 程 論	102	2					
道 徳 教 育 の 理 論 と 方 法	102	2					
総合的な学習の時間の指導法	102	2					
特 別 活 動 の 指 導 法	102	2					
教育の方法と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	102	2					
生徒・進路指導と キャリア教育の理論と方法	102	2					
教 育 相 談	101	2					
教 育 実 習 A	103				5		
教 育 実 習 B	103				3		
教 職 実 践 演 習 ( 中 高 )	103				2		
教 職 実 践 演 習 ( 栄 養 教 諭 )	103				2		

## 日本語科目・日本事情に関する科目

外国人留学生以外、履修不可

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本語科目	日本語 211	102	1
	日本語 212	102	1
	日本語 213	102	1
	日本語 214	102	1
	日本語 215	102	1
	日本語 221	102	1
	日本語 222	102	1
	日本語 223	102	1
	日本語 224	102	1
	日本語 225	102	1
	日本語 311	103	1
	日本語 312	103	1
	日本語 313	103	1
	日本語 314	103	1
	日本語 315	103	1
	日本語 321	103	1
	日本語 322	103	1
	日本語 323	103	1
	日本語 324	103	1
	日本語 325	103	1
	日本語 411	103	1
	日本語 412	103	1
日本語 421	103	1	
日本語 422	103	1	

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本事情に関する科目	日本事情 A	102	2
	日本事情 B	102	2
	日本事情 C	102	2
	日本事情 D	102	2
	インディペンデント・スタディ	103	2

# 1 カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーとは、専門教育科目のカリキュラムにおいて、学生が卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性を系統図的に可視化したものです。カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性が一望できるようになっています。

## 薬学科

青字は必修科目

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
基礎薬学分野	共通系	薬学概論(1)・(2)		薬学英語(1)・(2)	実用薬学英語		
	化学系	基礎化学(1)・(2) 有機化学(1)	有機化学(2)・(3) 生薬学(1)・(2)	有機化学(4) 医薬品化学(1) 薬用資源学	医薬品化学(2) 構造解析学		
	物理系	分析化学(1)	薬物物理化学 分析化学(2)	薬品分析学	機器分析学 放射薬学		
	生物系	基礎生物学 機能形態学(1)・(2) 生化学(1)	機能形態学(3) 生化学(2)・(3)	微生物学 免疫学 分子生物学 バイオテクノロジー	感染症学 ゲノム薬学		
衛生薬学分野	環境科学	衛生化学(1) 環境衛生学 香粧品科学A	衛生化学(2) 食品衛生学 香粧品科学B 化粧品学	公衆衛生学 サプリメント開発概論 臨床栄養化学			
医療薬学分野		医用統計学 基礎薬理学 製剤学(1) 医薬品情報学(1)	薬理学A(中枢神経系) 薬理学B(循環器系) 薬理学C(消化器系) 薬理学D(炎症・免疫系) 薬理学E(感覚器・泌尿器・内分泌系) 製剤学(2) 薬物動態学 生物薬剤学 医薬品情報学(2) 漢方概論 病態生理学	医療薬学A・B 薬物治療学A・B 薬事関係法規・制度 薬理学F(腫瘍) 臨床化学 看護学総論 医療倫理 コミュニケーション技法 医療検査概論		臨床薬物治療学 社会薬学 緩和医療入門	
実習科目		化学系実習(1)・(2) 生物系実習(1)・(2)	物理・分析系実習 衛生化学系実習 薬理系実習 薬剤・製剤系実習		実務実習		
セミナー・演習	薬学セミナー(1)・(2) 薬学PBL(1)・(2) 基礎薬学演習A・B	薬学セミナー(3)・(4)	薬学セミナー(5)・(6) 薬学TBL 薬学計算演習	薬学CBL 薬学演習 事前学習(1)・(2)		薬学総合演習 薬学応用演習	
卒業研究				卒業研究			
資格関連科目	基礎物理学	地学 地学実習					

## 2 薬学科 課程表

科目名の★は必修、☆は選択必修

基礎科目							
基礎科目 必修16単位							
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学概論(1)★	711	1					
薬学概論(2)★	711	1					
基礎化学(1)★	711	1					
基礎化学(2)★	711	1					
基礎生物学★	711	1					
有機化学(1)★	712	1					
有機化学(2)★	712		1				
薬品物理化学★	712		1				
機能形態学(1)★	712	1					
機能形態学(2)★	712	1					
機能形態学(3)★	712		1				
生化学(1)★	712	1					
生化学(2)★	712		1				
環境科学★	712	1					
分析化学(1)★	712	1					
分析化学(2)★	712		1				

基幹科目							
基幹科目 必修32単位							
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
有機化学(3)★	712		1				
有機化学(4)★	712			1			
生化学(3)★	712		1				
衛生化学(1)★	712		1				
衛生化学(2)★	712			1			
微生物学★	712			1			

基幹科目							
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
免疫学★	712			1			
医用統計学★	712		1				
公衆衛生学★	712				1		
基礎薬理学★	712		1				
薬理学A(中枢神経系)★	712			1			
薬理学B(循環器系)★	712			1			
薬理学C(消化器系)★	712			1			
薬理学D(炎症・免疫系)★	712			1			
薬理学E(感覚系・泌尿器・内分泌系)★	712			1			
製剤学(1)★	712		1				
製剤学(2)★	712			1			
薬物動態学★	712			1			
生物薬剤学★	712			1			
医療薬学A★	712				1		
医療薬学B★	712				1		
生薬学(1)★	712		1				
生薬学(2)★	712		1				
薬用資源学★	712			1			
医薬品化学(1)★	712			1			
医薬品化学(2)★	712				1		
薬物治療学A★	712				1		
薬物治療学B★	712				1		
薬事関係法規・制度★	712				1		
化粧品科学A★	712		1				
医薬品情報学(1)★	712		1				
医薬品情報学(2)★	712			1			

展開科目						
展開科目 必修22単位 選択必修2単位						
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数				
		1年	2年	3年	4年	5年
環 境 衛 生 学 ★	712	1				
食 品 衛 生 学 ★	712		1			
分 子 生 物 学 ★	712		1			
漢 方 概 論 ★	712		1			
薬 品 分 析 学 ★	712		1			
薬 学 英 語 (1) ★	712		1			
薬 学 英 語 (2) ★	712		1			
機 器 分 析 学 ★	712			1		
構 造 解 析 学 ★	712			1		
放 射 薬 学 ★	712			1		
感 染 症 学 ★	712			1		
薬 理 学 F (腫瘍) ★	712			1		
病 態 生 理 学 ★	712		1			
臨 床 化 学 ★	712			1		
看 護 学 総 論 ★	712			1		
医 療 倫 理 ★	712			1		
コミュニケーション技法 ★	712			1		
ゲノム薬学 ★	712			1		
臨床薬物治療学 ★	712					1
医療検査概論 ★	712			1		
社 会 薬 学 ★	712					1
緩和医療入門 ★	712					1

展開科目							
展開科目 ・選択必修A群から1単位 選択必修 ・選択必修B群から1単位 選択必修							
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
選択必修A群	香粧品科学B ☆	713			1		
	バイオテクノロジー ☆	713			1		
	化粧品学 ☆	713			1		
選択必修B群	サプリメント開発概論 ☆	713				1	
	実用薬学英語 ☆	713				1	
	臨床栄養化学 ☆	713				1	

実習科目						
実習科目 必修28単位						
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数				
		1年	2年	3年	4年	5年
化学系実習(1) ★	712	1				
化学系実習(2) ★	712	1				
生物系実習(1) ★	712	1				
生物系実習(2) ★	712	1				
物理・分析系実習 ★	712			1		
衛生化学系実習 ★	712			1		
薬理系実習 ★	712			1		
薬剤・製剤系実習 ★	712			1		
実務実習 ★	713					20



演習科目							
演習科目 必修41単位							
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学セミナー(1)★	711	1					
薬学セミナー(2)★	711	1					
薬学セミナー(3)★	712		2				
薬学セミナー(4)★	712		2				
薬学セミナー(5)★	712			2			
薬学セミナー(6)★	712			1			
薬学PBL(1)★	711	2					
薬学PBL(2)★	711	2					
薬学TBL★	712			1			
薬学CBL★	713				1		
基礎薬学演習A★	711	1					
基礎薬学演習B★	711	1					
薬学計算演習★	712			1			
薬学演習★	712				4		
事前学習(1)★	712				8		
事前学習(2)★	712				2		
薬学総合演習★	713					7	
薬学応用演習★	713					2	

卒業研究							
卒業研究 必修10単位							
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
卒 業 研 究 ★	713					10	

資格関連科目							
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
基 礎 物 理 学	711	1					
地 学	712		1				
地 学 実 習	712		1				

# 1 中高免教職課程について

## 〔1〕教職課程とは？

中学校や高校で授業を行うためには教員免許状が必要です。その取得のために必要な科目を開講し、教職課程を設けています。教育職員免許法や教育職員免許法施行規則等に定められた単位を修得することで、卒業時に教員免許状を取得できます。

教職に関心がある学生は、1年次から「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修してください。教職課程の申し込みは2年生の夏、教育実習の申し込みは3年生（薬学部は5年生）の春に行います。自信を持って教えられるように、教科と教職の両方の専門性を伸ばす努力をしてください。

本学の中高免教職課程を履修することにより授与される免許状の種類等は、次の通りです。私たち、中高免教職課程担当教員、職員は金城学院大学卒業生が一人でも多く、教育現場の教壇に立つことを願っています。

学 部	学 科		免許状の種類	免許教科
文学部	日本語日本文化学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語 国 語 書 道
	英語英米文化学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	外国語コミュニケーション学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	音楽芸術学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽 音 楽
生活環境学部	生活マネジメント学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭 情 報
	環境デザイン学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
	食環境栄養学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
国際情報学部	国際情報 学科	グローバル スタディーズコース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地 理 歴 史 公 民
		メディアスタディーズコース	高等学校教諭一種免許状	情 報
人間科学部	現代子ども教育学科		中学校教諭一種免許状	英 語
	多元心理学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 公 民
	コミュニティ福祉学科		高等学校教諭一種免許状	福 祉
薬学部	薬学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理 科 理 科

## 〔2〕教職課程の履修に必要な単位

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として学士の資格を有することが必要です。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。

その上で、教職課程の履修には教育職員免許法施行規則に定める、次の4種類の科目の修得が必要です。最低修得単位数は教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数であり、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

施行規則に定める科目区分等	最低修得単位数	
	中一種	高一種
①教科及び教科の指導法に関する科目	28	24
②教育の基礎的理解に関する科目等	27	23
③大学が独自に設定する科目	4	12
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8	8
合計	67	67

### ①教科及び教科の指導法に関する科目

薬学科

中一種免「理科」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数										
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年		単位		選択科目		学年	単位	
教科に関する専門的事項	物理学	28	基礎物理学	1年	1								
			薬品物理化学	2年	1								
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	28	機器分析学	4年	1								
			物理・分析系実習	3年	1								
	化学	28	基礎化学(1)	1年	1								
			基礎化学(2)	1年	1								
			有機化学(1)	1年	1								
			有機化学(2)	2年	1								
			有機化学(3)	2年	1								
			衛生化学(1)	2年	1								
			有機化学(4)	3年	1								
			医薬品化学(1)	3年	1								
			衛生化学(2)	3年	1								
			医薬品化学(2)	4年	1								
			公衆衛生学	4年	1								
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	28	化学系実習(1)	2年	1								
			化学系実習(2)	2年	1								
			衛生化学系実習	3年	1								
	生物学	28	基礎生物学	1年	1								
			生化学(1)	1年	1								
			機能形態学(2)	1年	1								
			生化学(2)	2年	1								
			機能形態学(3)	2年	1								
			分子生物学	3年	1								
			微生物学	3年	1								
	免疫学	3年	1										
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	28	生物系実習(1)	2年	1								
			生物系実習(2)	2年	1								
地学	28	地学	2年	1									
		地学実習	2年	1									
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	28	理科指導法A	2年	4									
		理科指導法B	2・3年	2									
		理科指導法C	2・3年	2									

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い中一種においては8単位を履修しておくこと。後述の〔3〕を参照してください。

高一種免「理科」

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数												
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	必修科目		学年		単位		選択科目		学年		単位		
教科に関する専門的事項	物理学	24	基礎物理学	1年	1										
			薬品物理化学	2年	1										
			機器分析学	4年	1										
	化学		基礎化学(1)	1年	1										
			基礎化学(2)	1年	1										
			有機化学(1)	1年	1										
			有機化学(2)	2年	1										
			有機化学(3)	2年	1										
			有機化学(4)	3年	1										
			医薬品化学(1)	3年	1										
			医薬品化学(2)	4年	1										
			衛生化学(1)	2年	1										
			衛生化学(2)	3年	1										
			公衆衛生学	4年	1										
	生物学		基礎生物学	1年	1										
			生化学(1)	1年	1										
			生化学(2)	2年	1										
			機能形態学(2)	1年	1										
			機能形態学(3)	2年	1										
			分子生物学	3年	1										
			微生物学	3年	1										
			免疫学	3年	1										
	地学		地学	2年	1										
	「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」		物理・分析系実習	3年	1										
化学系実習(1)		2年	1												
化学系実習(2)		2年	1												
衛生化学系実習		3年	1												
生物系実習(1)		2年	1												
生物系実習(2)		2年	1												
地学実習		2年	1												
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	理科指導法A	2年	4	理科指導法B	2・3年	2									
				理科指導法C	2・3年	2									

備考：取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を履修方法に従い高一種においては4単位を履修しておくこと。  
後述の〔3〕を参照してください。

②教育の基礎的理解に関する科目等

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数						履修方法
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	学校と教育の歴史	2						必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2						必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育社会学		2					必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達と学習	2						必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理論と方法			2				必修
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論				2			必修
道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法			2				中免のみ必修。高免においては選択。
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2					必修	
	特別活動の指導法		特別活動の指導法			2			必修	
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)	2					必修	
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法				2		必修	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	2					必修	
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習A					5	教育実習Aは中免のみ必修。高免は教育実習A、Bのいずれか1科目必修。いずれも事前事後指導1単位を含む。	
			教育実習B					3		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中高)					2	必修	

備考1：教育実習以前に、「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を履修しておくこと。

備考2：後述の〔3〕を参照してください。

### ③大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数						履修方法
科目区分	単位数		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
大学が独自に設定する科目	中4 高12	道徳教育の理論と方法			2				備考2
		情報教育論		2					

備考1：教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低取得単位数を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として使用することができます。ただし、他の免許教科のために設けられている「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として使用することはできません。

備考2：「道徳教育の理論と方法」は、高一種においては選択。中一種においては、「大学が独自に設定する科目」の単位として使用することはできません。

### ④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

施行規則に定める科目区分等	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数						履修方法
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	
日本国憲法	2	日本国憲法	2						必修
体育	2	スポーツ・アンド・エクササイズ講義		1					これら 7科目より 1科目 選択必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズF	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズG	1						
外国語 コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1)	1					必修	
		英語コミュニケーションA(2)	1						
情報機器の操作	2	情報リテラシー	2					必修	



### 〔3〕教育実習

教職に関する科目の一つである教育実習は、教育現場における体験を通じて、教育についての深い理解と強い熱意をつちかい、真によき教育者としての素地をつくることを目的として行われます。実習生は、実際に教壇に立つとともに、生徒へのさまざまな指導、学級の経営と管理、校務などの実習を行います。

教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 中学校免許取得のためには、「教育実習A」5単位（実習は原則として3週間4単位と事前・事後指導1単位）、高等学校免許取得のためには、「教育実習B」3単位（実習2週間2単位と事前・事後指導1単位）または「教育実習A」5単位のいずれかの履修が必要です。
- (2) 教育実習は、原則として中学校または高等学校、あるいはその両方です。いずれの場合も中学校・高等学校のすべての免許取得のための教育実習として有効です。
- (3) 複数の教科の免許を取得しようとする場合にも、実習はいずれかの教科で1回行えば十分です。
- (4) 教育実習は、実習校の協力を得て行われるものです。実習生は、実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (5) 教育実習に先立って、教育実習申込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で教育実習を希望する者は、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください。ただし、下記「3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件」の①を満たさない者は教育実習申込みを行うことはできません。
- (6) 教育実習期間の前後に数回の事前・事後指導を行います。また、教育実習後には、所定のレポートを提出しなければなりません。教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出も含まれます。
- (7) 教育実習は教員を志す者にのみ認められます。教育実習を希望する者は、教員採用試験（愛知県・名古屋市など）を受験することを原則とします。実際に、中学校・高等学校が実施する事前指導で、教員採用試験を受けない学生は実習をとりやめるように言われたケースがあります。また、採用試験に欠席した学生が出た場合、教育委員会から、電話やFAXで欠席した理由の説明を求められることがありますので必ず受験してください。さらに、教育実習や教員採用試験の時期は企業などへの就職活動の時期と重なりますが、企業などへの就職活動についての配慮はいっさい認められません。実習先の先生や生徒に迷惑をかけることが無いよう、教育実習を最優先させてください。
- (8) 教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、教育実習の履修以前に、「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目をすべて履修していなければなりません。また、取得希望する免許教科の「〇〇科指導法」を、中一種においては8単位、高一種においては4単位を履修していなければなりません。なお、教育実習への準備を十分に行うために高校の教員免許状取得では選択となっている「〇〇科指導法BまたはC」も全て履修することを強く推奨します。
- (9) 教育実習では実際の授業の場で生徒に指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、以下に示す1. 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」と「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する条件、2. 「教科に関する専門的事項」に関する条件、3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件のすべてを満たす場合に教育実習の履修を認めることにしています。

なお、オリエンテーション、事前指導、課題等への取り組みや履修カルテ等によって教育実習に向けた準備状況から、教育実習に向けた準備が不十分であると判断された学生には学科のアドバイザー教員や教職課程担当教員から、改善を促すことがあります。改善が見られない場合は履修を認めないこともあります。

#### 1. 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」と「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 原則として、教育実習履修前年度終了時まで、「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」と「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目をすべて履修し、かつ、18単位以上取得していること。ただし、「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用

を含む。)」に関する科目（〇〇科指導法）は、教育実習で担当する科目に関するもののみをこの条件の対象科目とする。

- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が50%以上の結果を、一度以上得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

\* 留学等によって、①の条件を満たすことができない学生は次のように対応する。留学へ行く場合は、4年次（薬学部6年次）卒業までに、教員免許状取得に必要な単位をすべて取得できる見込みがある場合にのみ、4年次（薬学部6年次）における教育実習履修を認めることとする。その際、原則として教育実習履修前年度末までに、「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」と「教育実践に関する科目」を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」を6科目以上履修し、12単位以上（〇〇科指導法Aまたは〇〇科指導法の単位を含む）を取得していることを条件とする。

## 2. 「教科に関する専門的事項」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 教育実習前年度終了時点における教育実習で担当する科目の「教科に関する専門的事項」のGPAが2.5以上であること。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「専門科目」（教育実習で担当する科目）の得点率が50%以上の結果を一度以上、得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。
- ③ 教科の専門的知識・技能があると認められる資格等を大学入学後に取得していること。
- 英語：英検2級以上、TOEIC 500点以上、TOEFL 470点（iBT 50点）以上、またはこれらと同等以上の資格のいずれか
- 家庭：消費者力検定「応用コース」3級以上
- 情報：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、マルチメディア検定エキスパートのいずれかに合格していること
- 音楽：音楽芸術学科が主催する定期演奏会の出場経験、またはそれと同等以上と認められる演奏会への出場経験
- 理科：薬学共用試験に合格していること
- その他、各学科から提案のあった資格、入賞経験等を有し、教職課程委員会が認めた場合。

\* 学内模試を受験できない等の事情がある編入生・科目等履修生は、課題に取り組みさせた上で、学力確認試験等を実施して、教育実習履修の可否を判断するものとする。

\* 科目等履修生は、「教科の専門的知識・技能があると求められる資格等」は科目等履修生を始める前に取得した資格等も対象とする。

\* コミュニティ福祉学科の学生は、2年前期終了時のGPAが2.5以上あり、3年次に「ソーシャルワーク実習」ならびに「ソーシャルワーク実習指導(3)(4)」の単位を取得していることも条件とする。

## 3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件

- ① 教育実習の申込みは、申込み前年度の3月末までに当該学年の秋課題を提出していることを条件とする。
- ② 教育実習の履修は、前年度の1月第2火曜日（成人の日の翌日）までに当該学年の秋課題までの課題のすべてを提出していることを条件とする。

\* 留学をする学生、編入生、科目等履修生の課題の内容や提出期限は、留学する時期や教育実習の履修予定年を考慮して担当教員から指示する。



## 〔4〕「介護等体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、中学校教諭の免許状を取得しようとする場合に、特別支援学校および社会福祉施設等で7日間以上にわたる「介護等体験」を行うことが必要です。大学が斡旋する施設等に行って所定の活動を行う必要があります。大学による斡旋は、3年次に行く予定です。説明会等を2年次から行いますので注意してください。ただし、介護等に関する専門知識等を有する者や障害により介護等体験が困難な者は、免除される場合がありますので、履修支援センターで相談してください。

なお、3年次の夏休みを中心とした時期に介護等体験の予定が入りますが、原則として、正式な授業と認められるもの（例：集中講義、幼稚園教育実習、病院及び薬局実務実習など）及び、学科の専門領域と密接に関連があり、かつ、教育実習に向けた準備の上でも有益であると考えられる学科主催の公式行事である場合、また、履修要覧で定めている「欠席」とみなさない場合の条件、大学9頁〔5〕②eに該当する可能性があり、「配慮すべき日数」が数日に留まるもの場合には日程調整を行います。日程が明確となっている場合は、所定の期日までに申告してください。

なお、「配慮すべき日数」が数日に留まるものうち当該学科からの要請によって教職課程委員会が承認した場合は、決められた期日までに申し出たことにより日程調整を行うことがあります。学科の行事等が予定されている場合は自学科の教員と自学科担当の教職課程担当教員に相談してください。

ただし、施設や学校の受け入れ側の都合で、希望に添う日程に調整することは保証できませんので、ご承知ください。

## 〔5〕教職課程関係の連絡とスケジュール

教職課程の履修に関しては、教育実習、介護等体験、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT(学生ポータルサイト)・manaba等によって行いますので、教職課程の履修を希望する者は常に注意してください。なお、教職課程に関する質問や相談は、履修支援センターで受け付けます。

教職課程に関して、6年間の主なスケジュールは次の通りです。

1年次	4月	教職課程ガイダンス（新入生オリエンテーション内）
2年次	7月 7月～9月	教職課程履修申込みオリエンテーション（履修希望者全員） 介護等体験申込みオリエンテーション（中学校免許状取得希望者）
3年次	4月 7月～ 8月～12月	介護等体験日程調整 介護等体験事前指導（全2回） 介護等体験
4年次	11月 12月	教員採用試験オリエンテーション 学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座
5年次	4月 4月・5月 5月～6月 8～9月 9月 11月～12月 12月	教育実習履修（次年度）申込みオリエンテーション 学内模試（各自申込） 教育実習希望校への内諾依頼 私学適性検査（各自申込） 第1回教育実習事前指導 教員採用試験オリエンテーション 学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座

6年次	4月～5月	教育実習事前指導
	4月・5月	学内模試（各自申込）
	5月中旬	愛知県・名古屋市・岐阜県・三重県教育委員会採用試験説明会
	5月～6月	教育実習A（原則として3週間）、教育実習B（2週間） *一部の学校では9月～10月になります
	7月上旬	教育実習事後指導：学部別
	7月中旬	教員採用試験・一次試験（愛知県・名古屋市 他全員受験）
	8月	教員採用試験・二次試験（愛知県・名古屋市 他）
	8月～9月	私学適性検査（各自申込）
	9月	教員免許状一括申請学内申込み
	11月	教員免許状申請書類記入
	3月（学位記授与式当日）	免許状交付

### <教員採用試験模擬試験>

本学では、中高免教職課程において教育実習を行う者は、教員採用試験を受験することを原則とします。これは教育委員会から、教育実習の受け入れ条件として教員になる希望を持って、採用試験を受験することが条件として示されているためです。この条件は、教育現場において授業を担当する以上、しっかりとした専門的な知識技能と教職への希望を持って子どもへの指導にあたって欲しいという教育現場からの声を反映させたものであると本学では理解しています。そのため、4年次12月から6年次5月にかけて、キャリア・アップ講座に設けられている模擬試験（学内模試）を受験することを推奨しています。教員採用試験は、試験範囲が広く、長期的な展望を持って準備しないと、合格は容易ではありません。長期的な学習計画を立て、模擬試験をペースメーカーとして、教育実習と採用試験に備えてください。

注1）教員採用試験対策講座受講者は、専門科目の模擬試験が受験できます。詳しくはキャリア・アップ講座の窓口にお問い合わせください。

### <教員採用試験>

公立中学校・高等学校の教員採用試験は、毎年夏に行われます。前述のように、本学では、教員採用試験の受験を教育実習を行うための条件にしています。また、多くの教育委員会で、教育実習の期間前や期間中に教員採用試験受験申し込み締め切りを設定しているため、教育実習前に教員採用試験の受験申し込みを済ませてください。なお、私学の教員採用については、応募や試験の形態が様々であるため、私学教員を志す場合は、各自で情報収集をするとともに、各学部・各学科担当の教職課程委員の教員に相談をしてください。

### <教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。6年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

## 〔6〕 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、2,500円（5年次前期）、16,600円（6年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

また、中学校教諭の免許状取得希望者は、介護等体験履修費として11,000円（3年次前期）、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

納入方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

# 1 薬剤師資格について

薬剤師法第1条に「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と規定されています。

また、社団法人日本薬剤師会の制定した薬剤師綱領（昭和48年10月制定）に次の通り記載されています。

- ・ 薬剤師は国から付託された資格に基づき、医薬品の製造・調剤・供給において、その固有の任務を遂行することにより、医療水準の向上に資することを本領とする。
- ・ 薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職としてその職能を発揮し、国民の健康増進に寄与する社会的責任を担う。
- ・ 薬剤師はその業務が人の生命健康にかかわることに深く思いを致し、絶えず薬学・医学の成果を吸収して、人類の福祉に貢献するよう努める。

## 〔1〕 薬剤師国家試験受験資格について

薬剤師法（昭和35年法律第146号第15条の規定）において、「学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づく大学において、薬学の正規の課程を修めて卒業した者」と定められています。本学の所定の単位を修得し、卒業（3月31日までに卒業見込みを含む）することにより、受験資格を得ることができます。

## 〔2〕 薬剤師国家試験について

薬剤師国家試験は、毎年3月に2日間の日程で実施されています。これまで、北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県および福岡県で実施されました。

試験の詳細については、K-PORT等でお知らせします。

## 〔3〕 薬学部を卒業すると得られる資格について

卒業と同時に得られる資格は、前述の薬剤師国家試験受験資格です。また、薬剤師国家試験に合格し薬剤師の免許を取得すれば、申請・届出・任命により、以下の資格が与えられます。

麻薬管理者 毒物劇物取扱責任者 食品衛生管理者 向精神薬取扱責任者  
建築物環境衛生管理技術者 水道技術管理者 第一種衛生管理者

薬剤師の免許を取得後、研修・認定試験合格等により、以下の資格が取得できます。

専門薬剤師（がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、精神科専門薬剤師）  
研修認定薬剤師 漢方薬・生薬認定薬剤師



**UNIVERSITY  
ACCREDITED  
2015.4~2022.3**

本学は、2014年度に実施された公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受けた結果、大学基準に適合しているとの認定を受けました。このマークは、それを証するものです。

公益財団法人大学基準協会とは：

1947年に、「内外の大学に関する調査研究を行い、会員の自主的努力と相互的援助によって、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。」として創設された、国・公・私立の大学を会員校とする団体で、2015年度現在正会員として352校が加盟しています。

## 履 修 要 覧

2021年度

2021年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター  
〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地  
TEL (052) 798-0180  
URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>